

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標 《新》は、新たに生徒アンケートに加えるもの	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)	改善策																	
					令和6年度	令和7年度																			
知	主体的に学ぶ生徒の育成【学力】	知識・技能の確実な定着を図る。	・定期的な学力定着確認の取組	○確認テストの合格ライン(7割)以上の生徒の割合	77.9% (国 77.4%、社 75.5%、数 80.5%、理 87.5%、英 68.4%)	5教科 80%																			
			・生徒の学びの振り返りや学び直しによる学力定着のための取組	○江田島市学力調査の観点別「知識・技能」の平均正答率	令和6年12月(「知識・技能」の正答率) <table border="1"> <tr><th></th><th>国</th><th>社</th><th>数</th><th>理</th><th>英</th></tr> <tr><td>2年</td><td>57.9 (97)</td><td>55.2 (105)</td><td>66.2 (118)</td><td>50.3 (99)</td><td>52.4 (84)</td></tr> <tr><td>1年</td><td>57.6 (89)</td><td>52.0 (95)</td><td>70.2 (117)</td><td>61.0 (114)</td><td>53.9 (82)</td></tr> </table> ※ ( )は全国比を表す		国	社	数	理	英	2年	57.9 (97)	55.2 (105)	66.2 (118)	50.3 (99)	52.4 (84)	1年	57.6 (89)	52.0 (95)	70.2 (117)	61.0 (114)	53.9 (82)	各学年における各教科の全国比を前年度以上または105以上にする	
			国	社	数	理	英																		
2年	57.9 (97)	55.2 (105)	66.2 (118)	50.3 (99)	52.4 (84)																				
1年	57.6 (89)	52.0 (95)	70.2 (117)	61.0 (114)	53.9 (82)																				
思考力、判断力、表現力を鍛える。	・思考を深め、自己決定・自己表現しながら主体的に学ぶための授業改善	○江田島市学力調査(5教科)における思考・判断・表現の観点の平均正答率	令和6年12月(「思考・判断・表現」の正答率) <table border="1"> <tr><th></th><th>国</th><th>社</th><th>数</th><th>理</th><th>英</th></tr> <tr><td>2年</td><td>51.0 (98)</td><td>44.4 (107)</td><td>42.0 (126)</td><td>20.4 (72)</td><td>36.1 (86)</td></tr> <tr><td>1年</td><td>56.5 (106)</td><td>47.7 (107)</td><td>56.8 (129)</td><td>37.8 (90)</td><td>37.2 (79)</td></tr> </table> ※ ( )は全国比を表す ※太字は全国比100以上の教科		国	社	数	理	英	2年	51.0 (98)	44.4 (107)	42.0 (126)	20.4 (72)	36.1 (86)	1年	56.5 (106)	47.7 (107)	56.8 (129)	37.8 (90)	37.2 (79)	各学年における各教科の全国比を105以上にする			
	国	社	数	理	英																				
2年	51.0 (98)	44.4 (107)	42.0 (126)	20.4 (72)	36.1 (86)																				
1年	56.5 (106)	47.7 (107)	56.8 (129)	37.8 (90)	37.2 (79)																				
徳	自己実現と社会貢献を図る基礎の育成【規律】【自己実現】【貢献】	行動三原則の徹底を図る。(時間、あいさつ、返事)	○あいさつ、返事の指導の徹底	○「大きな声ではっきりと挨拶や返事をしている」生徒の割合	89.3%	90%																			
		不登校生徒への取組を充実させる。	・担当教員を中心とした組織的な取組の充実 ・教育相談体制の充実	○不登校生徒数	4人	3人																			
		レジリエンスを育成し、自己有用感を高める。	・レジリエンスを育成する学習活動の推進 ・生徒会を中心としたボランティア活動の充実	○「つらい出来事があっても耐えられる」と感じる生徒の割合《新》 ○「自分のよさは周りから認められている」と感じる生徒の割合	53.9% 71.0%	60% 75%																			
体	体力の向上と生活習慣の改善【運動習慣・体力】	体力の向上を図る。	・部長会の充実と部活動の活性化 ・保健体育委員会を中心とした体育的活動の充実	○体力・運動能力調査「県平均以上」の種目数 ○「運動を週3日以上行う」生徒の割合	5種目 53.8%	6種目 70%																			
		基本的な生活習慣の改善を図る。	・健康観察の充実 ・情報モラルに関する指導の充実	「健康観察を通して自分の生活習慣の改善を図るように努力している」と感じる生徒の割合	70.7%	80%																			
		「公開性」	○学校だより、学級通信、HP等により取組の目指す姿や結果をタイムリーに発信	○「学校の様子がよくわかる」と感じる保護者の割合	93.3%	95%																			
信頼される学校	「学校組織マネジメント」の確立	積極的な情報発信を図る。	○きめ細かい連携による進路情報の提供【新規】	○「進路に関わる連絡や情報提供が適切に行われている」と感じる保護者の割合	86.2%	90%																			
		「働き方改革」を推進する。	○校務分掌の平準化 ○各活動の見直しと早期の起案 ○部活動休養日の完全実施	○時間外勤務月 80時間以上の職員数 ○「生徒と向き合える時間が確保できている」と感じる職員の割合	3人/13人 90.9%	0人 100%																			